

大阪国際児童文学振興財団の現在 その2 国際児童文学館資料を使ったさまざまな活動

財団の現状をご紹介する2回目です。1回目では、当財団の活動のすべての基本に、大阪府立中央図書館 国際児童文学館（以下、国際児童文学館）の約81万点の貴重な児童文学・児童文化に関わる資料があること、**国際児童文学館と協働**しながら、資料を集め、資料の意義を広く伝え、出版文化財として後世に残すために活動していることを書きました。今回は、**資料を直接的に使った活動**について紹介します。

1. 新刊を読む・伝える

子どもの本の新刊書については、寄贈の有無に関係なく、できるだけ多く読み、その中から子どもたちに届けたいと思う資料（年間1500冊程度）を、インターネット検索サイト「[本の海大冒険](#)」(H15,26年度子どもゆめ基金助成事業)に定期的にアップしています。富士通システムズアプリケーション&サポートとの共同開発システム「[ほんナビきっず](#)」にも新刊のデータを提供しています（契約・稼働している図書館は7月末日現在、北海道から沖縄まで83館）。当財団のメールマガジンでは、毎月新刊書を1冊とりあげて対談を行い、2020年4月から始めた「[YouTube 版 本の海大冒険](#)」「[新刊子どもの本 ここがオススメ!](#)」でも新刊書を紹介、**学校司書の勉強会、講座・講演会**等でも新刊の紹介を行っています。

そうして長年にわたって読み重ねていった成果は、たとえば『**ひとりでよめたよ！ 幼年文学おすすめブックガイド200**』（当財団編 評論社 2019年）などの出版物、まもなく20年目を迎える国際児童文学館での「**新刊紹介**」講座に結実しています。

国際児童文学館では、子どもの本に関する研究書も収集していますが、理事・特別専門員の遠藤純は、毎年、日本児童文学学会研究紀要『**児童文学研究**』に「**日本児童文学研究文献目録**」を連載し、その成果が『**日本児童文学文献目録**』（遠藤純／監修 日外アソシエーツ 2019年）二分冊にまとまりました。

2. 資料を研究する・伝える

国際児童文学館の資料は新刊を集め続けることだけでなく、明治時代以降の資料の宝庫であることも大きな特徴です。子どもの本の「現在」を知るためには、歴史を振り返ることが必要であり、その積み重ねが、専門性を有した活動につながります。

当財団では、国の科学研究費助成を受け、継続して**明治・大正・昭和初期**の

出版文化史を追う共同研究を約 10 人の外部の研究者とともにを行っています。それによって、国際児童文学館の資料の価値を伝えるとともに、そこで学んだ知見を財団のすべての活動に生かしています。その成果は『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』にまとめ、毎年発行しています。研究紀要には、公募枠があり、国際児童文学館の資料研究を行っている研究者の成果を公開する役割も持っています。また、文化庁文化芸術振興費補助金（メディア芸術アーカイブ推進支援事業）を受け、国際児童文学館所蔵の貴重な雑誌の保存および活用のために資料のデジタル化を行ったり、内容細目を作成したりしています。

子どもの本に関するさまざまな質問に答えた書籍『子どもの本 100 問 100 答』（当財団編 創元社 2013 年）や大阪府立中央図書館等での展示企画、インターネットサイト「[マンガのひみつ大冒険！](#)」（H28 年度子どもゆめ基金助成事業）も専門性を生かした成果です。

2020 年 8 月 1 日

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 理事・総括専門員 土居 安子

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
